

第2次 玉名市学校規模・配置適正化基本計画



令和4年6月

玉 名 市 教 育 委 員 会

目 次

[はじめに].....	2
1 第1次計画の内容と進捗.....	3
2 本市の学校規模・現状と課題.....	4
(1) 少子化の進行.....	4
(2) 児童数の推移と将来推計.....	4
(3) 施設の老朽化.....	5
(4) 通学距離・通学時間.....	5
3 適正化の基本的な考え方.....	6
(1) 「子供のための教育環境整備」の観点を第一に.....	6
(2) 学校の適正規模の考え方.....	6
(3) 全市的な視野に立ち、適切な優先順位に基づく学校規模適正化の推進.....	6
(4) 地域の実態を踏まえた学校の適正配置の推進.....	7
(5) 子供たちの通学要件、地域性への配慮.....	7
(6) 地域と学校の連携・協働の一層の推進.....	7
4 再編計画.....	8
(1) 計画期間.....	8
(2) 計画方針.....	8
(3) 小学校の再編.....	8
5 学校再編の進め方.....	14
(1) 学校再編の検討の時期.....	14
(2) 学校再編の協議の進め方.....	14
6 小中一貫教育について.....	15
(1) 小中一貫教育制度：制度上の3類型.....	15
(2) 玉名市の小中一貫教育.....	16
※ 本計画における中学校区ごとの学校再編計画.....	17

資 料

- 1 現在の児童数等
- 2 児童数推計
- 3 学年別児童数・学級数推計 2020 (R2) 年度・2027 (R9) 年度
- 4 玉名市小中学校位置図

[はじめに]

玉名市は平成17年の市町合併により、小学校21校、中学校6校となり、地域の実情に応じた教育を行っていましたが、少子高齢化の進行に伴い、児童生徒数の減少が進み、多くの学校が小規模校となっていたため、平成24年10月に「玉名市学校規模・配置適正化基本計画」を策定し、当該計画に基づき、学校の適正配置を目指してきました。この計画では、玉名市における適正な学校規模の基準を定めるとともに、中学校区を範囲とし、まずは小学校の学校規模の適正化を進め、同時に「小中一貫教育」を推進するとしました。この計画期間中に、平成30年4月に6つの小学校を、そして令和2年4月に2つの小学校を統合し、現在の小学校数は15となっています。

この計画の期間は、平成24年度から平成33年度（令和3年度）までの10年間としており、今般の期間満了に伴い、次の10年間の計画である第2次計画の策定に向け、玉名市学校規模適正化審議会を令和2年11月に設置し、全7回の協議を経て、令和4年1月26日に同審議会から玉名市教育委員会に対して建議をいただきました。

玉名市教育委員会は、この建議をもとに、第2次計画を策定し、学校規模及び配置の適正化を進めていきます。適正化の大きな目的は、「子供のための教育環境の整備」であり、かつ、「（地域の実態に応じた統合による）コミュニティの拡大」も併せて進めることにより、玉名市の教育理念である「生涯を通じて未来を拓く地域と国際社会に貢献する『かがやく』人づくり」につながるものと考えます。

本計画により、学校規模及び配置の適正化を進めるとともに、今後も引き続き、義務教育の9年間を見通したうえで、小学校と中学校が「目指す児童・生徒像」を共有し、互いに連携・協力しながら、小中一貫した教育に取り組んでいきます。

令和4年6月24日

玉名市教育委員会

1 第1次計画の内容と進捗

	中学校区	施設名	統合の時期（予定）
1	玉陵中学校	梅林小学校 月瀬小学校 玉名小学校 石貫小学校 三ツ川小学校 小田小学校	早急な対応を必要とする （検討開始時期：平成24年～） ↓ <u>平成30年4月に統合し、校名は玉陵小学校となりました。</u>
2	天水中学校	玉水小学校 小天小学校 小天東小学校	第1次計画期間内に対応を検討する （検討開始時期：平成27年～） ↓ <u>小天小学校・小天東小学校は令和2年4月に統合し、校名は小天小学校となりました。</u> ※玉水小学校と小天小学校の統合については、令和元年12月から令和4年3月にかけて、新しい学校づくり委員会において全9回の協議を行いました。
3	玉南中学校	八嘉小学校 伊倉小学校	第1次計画期間内に対応を検討する （検討開始時期：平成29年～） 未着手
4	有明中学校	大浜小学校 豊水小学校 横島小学校	第1次計画期間内に対応を検討する （検討開始時期：平成32年～） 未着手
5	岱明中学校	大野小学校 睦合小学校 鍋小学校 高道小学校	第1次計画期間内では児童数の推移を見守る
6	玉名中学校	滑石小学校	第1次計画期間内では児童数の推移を見守る
		玉名町小学校	現状維持 ※適正化実施予定なし
		築山小学校	現状維持 ※適正化実施予定なし

2 本市の学校規模・現状と課題

(1) 少子化の進行

玉名市の総人口（国勢調査）は、平成2年の73,319人から、平成17年10月の市町合併時には71,851人、令和2年には64,292人となり、平成2年から令和2年までの30年間で約12.3%減少しています。また、国立社会保障・人口問題研究所編「日本の地域別将来人口（平成30年推計）」によると、令和27年（2045年）には玉名市の総人口が46,675人になると予測されており、令和2年からの25年間では、約27.4%も減少することになります。

一方、年少人口（0～14歳）の推移を見ると、平成2年（14,164人）から令和2年（7,960人）までの30年間で約43.8%減少しており、先述の「日本の地域別将来人口」では、令和27年（5,529人）までの25年間で、さらに約31%減少すると予測されています。

(2) 児童数の推移と将来推計

学校基本調査に基づき、児童数の推移をたどると、昭和53年6,376人、昭和55年6,390人、昭和60年6,319人と6千人台で推移していたものが、平成に入ると、平成2年5,981人、平成12年4,668人、平成17年4,307人、平成22年3,813人、平成27年3,476人、令和3年3,337人と減少に歯止めがきかない状況となっています。将来の児童数を、令和3年5月現在の住民基本台帳を基に推計すると、令和9年（2027年）は2,936人となり、この結果、令和3年から令和9年までの6年間で、約12.0%減少する見込みとなります。

学校名	1978(S53)年	2005(H17)年	2021(R3)年	2027(R9)年推計
玉名町小学校	1,284	851	658	613
築山小学校	404	607	673	609
滑石小学校	345	172	105	70
八嘉小学校	367	210	118	115
伊倉小学校	345	215	161	121
玉陵小学校	662	464	306	293
大浜小学校	283	166	135	102
豊水小学校	135	83	51	36
横島小学校	523	336	230	210
大野小学校	310	199	218	215
睦合小学校	285	209	164	136
鍋小学校	349	179	110	72
高道小学校	362	217	171	146
玉水小学校	676	177	116	114
小天小学校		222	121	84
合計	6,376	4,307	3,337	2,936

※ 玉陵小学校は平成30年4月に、小天小学校は、令和2年4月に統合しました。

※ 大野小、睦合小、鍋小、高道小の1978（S53）年の児童数は、1975（S50）年の児童数を記載しています。

(3) 施設の老朽化

学校施設は、子供たちの教育・学習の場だけでなく、地域コミュニティの場でもあり、災害時には避難所としての役割を果たす重要な施設です。それに加えて、学校施設の維持管理、老朽化対策は大きな行政課題となっています。

玉名市の学校施設は、昭和40年代後半から昭和60年代にかけて集中して整備していることから、築30年以上経過した学校施設が全体の約65%を占め、今後、老朽化した大量の学校施設が更新時期を迎えることとなります。加えて、プールの老朽化はさらに進んでおり、50年以上経過するプールは全体の半数を超える12となっています。良質な教育環境の確保と、学校施設の適正な維持管理は、学校規模配置適正化と切り離せない問題です。

●40年以上経過した学校施設（校舎）の老朽化の現状

- ・滑石小学校：教室棟（昭和46年建設、経過年数51年）
- ・八嘉小学校：教室棟（昭和49年建設、経過年数48年）
- ・伊倉小学校：特別教室棟（昭和51年建設、経過年数46年）
- ・睦合小学校：教室棟（昭和51年建設、経過年数46年）
- ・築山小学校：特別教室棟（昭和53年建設、経過年数44年）
- ・玉水小学校：教室棟等3件（昭和53年～54年建設、経過年数43～44年）
- ・大野小学校：管理教室棟（昭和56年建設、経過年数41年）

(4) 通学距離・通学時間

玉名市では、通学のためにスクールバスを利用できる児童の条件について、次のとおり定めています。①通学距離が4km以上の児童、②学校の統合により通学条件が変更になる児童で教育委員会が認めるもの、③特別の事情を有する児童でスクールバスを利用する必要があると教育委員会が認めるもの。

文部科学省によると、子どもの体力は、昭和60年をピークに下がり続け、令和元年度の調査では、小学校5年生男子の体力合計点が平成20年の調査開始以来最低を記録しました。この理由のひとつと考えられる、ゲーム等インターネット中心の生活で外遊びが減っていることに加えて、学校再編で通学方法が徒歩からバスに移行したことで運動量がさらに落ち込むことを懸念して、体育の授業以外の場で独自に運動の機会をつくる学校が出てきています。

現在、玉名市では、玉陵小学校、大浜小学校、小天小学校の一部の児童がスクールバスを利用していますが、今後の学校再編により、多くの児童がスクールバスを利用することが予測されます。「運動能力・体力づくり」の観点からも、スクールバス利用条件の検討が今後必要と考えられます。

3 適正化の基本的な考え方

(1) 「子供のための教育環境整備」の観点を第一に

学校規模の適正化を進めるにあたっては、より良い教育環境を等しく提供すること、より望ましい学習集団の中で教育活動が行われることを第一に考えます。

そのため、玉名市においては、「切磋琢磨できる教育環境」の確保を重要課題として捉え、現行の学習指導要領にある、子供の「生きる力」、とりわけ「コミュニケーション能力」の育成を図るとともに、学習者の能動的な参画を取り入れた「アクティブ・ラーニング」による授業改善に向けた「学びの集団づくり」を行うことで、一人一人が社会の中で自立し、他者と連携・協働しながら、生涯にわたって生き抜く力や地域の課題解決を主体的に担うことができる力を育成していきます。

(2) 学校の適正規模の考え方

「適正規模」については、「1学級 20～30人」「各学年 2学級以上」が望ましいものと考えます。小学校では、将来的には全ての学年において「35人学級」となるため、クラス替えが可能な「各学年 2学級以上（学校全体で 12学級以上）」の学校規模を実現するには、全校児童数おおむね 240人以上（1学年 40人以上×6学年）を「学校規模適正化」の目安とし、それに近づけていくことを基本とします。統合後に「各学年 2学級以上」が見込めない場合においても、「学級 20～30人」の確保は必要と考えます。

・小学校の望まれる学校規模基準

1学級の人数	1学年の学級数	学校の学級数
20～30人	2学級以上	12学級以上

※1学級の学級編制を35人としています。

(3) 全市的な視野に立ち、適切な優先順位に基づく学校規模適正化の推進

前回の計画と同様に、小規模校（12学級未満）、特に「過小規模校（複式学級を有する学校）」など、学校運営上改善の必要度の高い学校から、6つのゾーンに分けた中学校区単位での推進を図ることとし、保護者や地域住民の理解を得ながら進めます。

第1次計画において掲げた1小1中での校区形成（玉名中学校区を除く）については、地域の実態等に応じて段階的に行うものとし、有明中学校区、岱明中学校区においては、当面の間、2小1中での運営を目指します。

また、熊本地震を経験した教訓を基に、災害発生に備えた「安全・安心」の観点からの学校校舎等の改善は急務であることから、学校規模適正化の一環として、老朽化が進む校舎等の施設整備について、計画的、効率的に進めていきます。

(4) 地域の実態を踏まえた学校の適正配置の推進

現在のコミュニティ（小学校区）については、学校再編による「コミュニティの拡大」という考えで進めます。ただし、合併前の旧3町（旧岱明町、旧横島町、旧天水町）それぞれの範域については、学校を取り巻く社会的、歴史的な背景に留意し、「地域アイデンティティ（郷土意識）」を尊重した推進を図ることとします。

(5) 子供たちの通学要件、地域性への配慮

通学時間等、子供たちの心身に与える影響や、地域の特性等には可能な限り配慮することとします。しかしながら、子供の心身の発達、「運動能力・体力づくり」の観点から、スクールバス等の導入にあたっては、通学距離・通学時間等について十分に検討する必要があります。また、市内の統合校においては、4km未満でのスクールバス利用がある一方、他方では4kmまでは徒歩で通学している実態があり、今後、スクールバス利用条件の検討は必須と考えます。

(6) 地域と学校の連携・協働の一層の推進

玉名市の「特色ある学校づくり」の取組である「小中一貫した教育」を一層推進するとともに、「社会に開かれた教育課程」の観点から「地域の教育力」の活用、コミュニティ・スクール（学校運営協議会制度）の充実など地域学校協働活動を推進します。

4 再編計画

(1) 計画期間

令和4年度から令和13年度までの10年間

(おおむね5年を目途に、必要に応じて計画の見直しを行います。)

(2) 計画方針

玉名市は、第1次基本計画において、「1小1中」という校区の形成(学校再編)を目指しており、このことに限らず、第2次の計画においても、第1次基本計画の考え方は、基本的に踏襲すべきものと考えます。

しかしながら、玉名市学校規模適正化審議会での議論において、10年後の児童数、旧3町(旧岱明町、旧横島町、旧天水町)の地域コミュニティへの配慮も重要であるとされたことから、これらの点に留意して学校再編を進めていかなければなりません。また、玉名市が多くの学校施設を管理していることから、施設環境の整備の視点も踏まえて計画していく必要があります。

(3) 小学校の再編

前回の計画と同様、一定の地域性を考え、玉名市を6つのゾーンに分けた中学校区で、校区の経緯及び将来の動向も含めて、学校運営上改善の必要度の高い学校から適正化を進めます。

計画期間の中で、この間及びこの先の児童生徒数推計を見極めながら、「適正化の基本的な考え方」に基づいて、適正規模基準に満たない小規模校(12学級未満)、特に過小規模校(複式学級を有する学校)の小学校が多いゾーン(中学校区)から再編を進めます。

6つのゾーン(中学校区)で再編を進めていきますが、下記のとおり優先度の高い学校を含む中学校区から順次進めていきます。

令和4年5月現在の進捗状況	優先度の区分	学校名	備考
着手	早急な対応を必要とする	玉水小学校 小天小学校	令和2年4月に小天小学校と小天東小学校を統合
未着手		本計画期間内に対応を検討する	豊水小学校
	鍋小学校		児童数の減少が顕著
	滑石小学校		
		八嘉小学校 伊倉小学校	施設の老朽化が顕著

以下、本項に記載している学級数及び児童数は、令和3年度は、学校基本調査及び学級数児童生徒数調べ（5月1日現在）から記載しています。令和8年度及び令和9年度は、令和3年4月末現在の住民基本台帳を基に推計しています。なお、学級数には特別支援学級の数は含めていません。

【玉名中学校区】・・・2小1中（滑石小学校については学校再編を検討します）

◆玉名町小学校

玉名町小学校は、学校の学級数が20学級、1学年3～4学級程度の規模の学校であることから、望まれる学校規模基準を満たしており、適正化の必要はないと考えます。

学校名	2021(令和3)年度		2026(令和8)年度		2027(令和9)年度		児童数 増減率※
	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	
玉名町小学校	20	658	21	626	20	613	△6.8

※児童数増減率は、令和3年度と令和9年度の比較です。

◆築山小学校

築山小学校は、学校の学級数が19学級、1学年3～4学級程度の規模の学校であることから、望まれる学校規模基準を満たしており、適正化の必要はないと考えます。

学校名	2021(令和3)年度		2026(令和8)年度		2027(令和9)年度		児童数 増減率
	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	
築山小学校	19	673	20	637	19	609	△9.5

◆滑石小学校

令和9年度の滑石小学校の児童数は70名、新1年生は5名と予測され、児童数の減少が顕著であるため、計画期間中において対応を検討します。その場合は、地域住民や保護者、学校関係者との十分な協議のうえ、そのひとつの改善策として、中学校区の変更についても検討し、校区に隣接する学校の学校再編の進捗に合わせて検討を進めます。

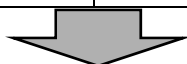
学校名	2021(令和3)年度		2026(令和8)年度		2027(令和9)年度		児童数 増減率
	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	
滑石小学校	6	105	6	85	6	70	△33.3

【玉南中学校区】・・・1小1中

◆八嘉小学校と伊倉小学校の統合

八嘉小学校の児童数の増減率は $\Delta 2.5\%$ で比較的緩やかですが、伊倉小学校の児童数の増減率は $\Delta 24.8\%$ です。また、八嘉小学校、伊倉小学校の校舎が、両校ともに45年以上経過していることから、計画期間中において対応を検討する必要があります。

学校名	2021(令和3)年度		2026(令和8)年度		2027(令和9)年度		児童数 増減率
	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	
八嘉小学校	6	118	6	116	6	115	$\Delta 2.5$
伊倉小学校	6	161	6	127	6	121	$\Delta 24.8$



統合した場合	11	279	12	243	11	236	
--------	----	-----	----	-----	----	-----	--

【玉陵中学校区】・・・1小1中

◆玉陵小学校

玉陵小学校は、平成30年4月に、玉陵中学校区の梅林小学校、月瀬小学校、玉名小学校、石貫小学校、三ツ川小学校、小田小学校が統合し、開校しました。令和3年度の学級数は11学級で、望まれる学校規模基準を満たしていませんが、今後も11~12学級で推移することが予測されることから、早急な適正化は必要ないと考えます。

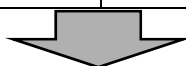
学校名	2021(令和3)年度		2026(令和8)年度		2027(令和9)年度		児童数 増減率
	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	
玉陵小学校	11	306	12	311	12	293	$\Delta 4.2$

【有明中学校区】・・・2小1中

◆豊水小学校と大浜小学校の統合

現在、豊水小学校は、複式学級（1学級）を有する過小規模校であり、その解消は最優先課題と捉えています。今後の児童数の予測では、令和5年度に複式学級が2学級となることから、早い時期の統合を目指します。また、校区の隣接、学校間の距離、通学区域等を考慮し、歴史的に関係が深い豊水小学校と大浜小学校との統合が望ましいと考えます。

学校名	2021(令和3)年度		2026(令和8)年度		2027(令和9)年度		児童数 増減率
	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	
大浜小学校	6	135	6	115	6	102	△24.4
豊水小学校	5	51	4	34	4	36	△29.4



統合した場合	7	186	6	149	6	138	
--------	---	-----	---	-----	---	-----	--

◆横島小学校

横島小学校については、第1次計画では横島小学校を含めた3小学校の統合により適正基準を満たすとしていましたが、「地域アイデンティティ（郷土意識）」を尊重した推進という「適正化の基本的な考え方」に基づき、当面の間、学校再編の対象とはせず、児童数の推移を見守ることとします。

学校名	2021(令和3)年度		2026(令和8)年度		2027(令和9)年度		児童数 増減率
	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	
横島小学校	9	230	8	209	8	210	△8.7

【岱明中学校区】・・・2小1中

岱明中学校区の小学校の再編については、第1次計画において4小学校（大野小学校・睦合小学校・鍋小学校・高道小学校）の統合により、適正基準を満たすとなりましたが、岱明中学校区の児童数の減少率は比較的緩やかであるため、まずは2小1中の中学校区とし、施設分離型の小中一貫した教育を行っていきます。

また、校区の隣接、学校間の距離、通学区域、児童数等を考慮し、鍋小学校と高道小学校の統合、大野小学校と睦合小学校の統合が望ましいと考えます。

◆鍋小学校、高道小学校の統合

鍋小学校の児童数の減少が顕著であるため、計画期間中において対応を検討します。

学校名	2021(令和3)年度		2026(令和8)年度		2027(令和9)年度		児童数 増減率
	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	
鍋 小学校	6	110	6	79	6	72	△34.5
高道小学校	6	171	6	153	6	146	△14.6



統合した場合	12	281	10	232	9	218
--------	----	-----	----	-----	---	-----

◆大野小学校、睦合小学校の統合

大野小学校と睦合小学校は、いずれも適正規模基準を満たしていません。しかしながら児童数の減少が比較的緩やかであるため、本計画期間内においては児童数の推移を見守ることとします。

学校名	2021(令和3)年度		2026(令和8)年度		2027(令和9)年度		児童数 増減率
	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	
大野小学校	8	218	8	209	9	215	△1.4
睦合小学校	6	164	6	140	6	136	△17.1



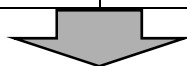
統合した場合	12	382	12	349	12	351
--------	----	-----	----	-----	----	-----

【天水中学校区】・・・1小1中

◆玉水小学校・小天小学校の統合

第1次計画期間中の令和2年4月に、小天小学校と小天東小学校が統合して小天小学校となりました。今後は、引き続き玉水小学校と小天小学校の統合を進めていきます。

学校名	2021(令和3)年度		2026(令和8)年度		2027(令和9)年度		児童数 増減率
	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	
玉水小学校	6	116	6	120	6	114	△1.7
小天小学校	6	121	6	85	6	84	△30.6



統合した場合	8	237	8	205	8	198	
--------	---	-----	---	-----	---	-----	--

5 学校再編の進め方

第1次計画の期間を経て、小学校の再編には想定以上の時間がかかることが分かりました。しかしながら、10年前の計画策定時以上に人口の減少・少子化の進行が加速しています。そのため、今後10年間の計画期間中において、児童生徒数の推移及び本計画の進捗状況等を踏まえながら、おおむね5年を目途に、必要に応じて計画の見直しを行います。

また、学校施設については、既存の学校を適切に維持管理しながら、教育内容をより充実させるための学校施設として、計画的に整備していきます。

学校再編により閉校となった学校跡地についても、地域振興拠点づくりや市民の共有財産として、学校が地域コミュニティの中心的役割、災害時の避難場所等を担ってきたということを考慮に入れ、地域の方々と検討する機会等を設け、幅広い観点から検討を行い、有効な活用方法など探っていきます。

(1) 学校再編の検討の時期

優先度の区分	中学校区名
早急な対応を必要とする校区	有明中学校区 (大浜小学校・豊水小学校)
	天水中学校区 (玉水小学校・小天小学校)
本計画期間内に対応を検討する校区	岱明中学校区 (鍋小学校・高道小学校)
	玉名中学校区 (滑石小学校)
	玉南中学校区 (八嘉小学校・伊倉小学校)
本計画期間内では児童数の推移を見守る校区	岱明中学校区 (大野小学校・睦合小学校)
	有明中学校区 (横島小学校)
本計画期間内では対応を必要としない校区	玉名中学校区 (玉名町小学校・築山小学校)
	玉陵中学校区 (玉陵小学校)

(2) 学校再編の協議の進め方

学校再編の協議を進めるに当たっては、保護者、地域への説明等を行い、丁寧に進めていきます。そして、対象校の保護者・地域・学校関係者等による協議組織(新しい学校づくり委員会)を設置し、開校に向けて必要な基本事項(新たな校名、校歌、校旗、通学路、標準服、PTA、移転計画、跡地利用検討等)について協議をしていきます。

開校までの期間は、その地域や協議期間、施設整備に関する期間等によって異なりますが、施設整備が必要な場合は、約4～5年かかる場合があります。

また、再編後の新しい学校の場所は、既存の小中学校がある場所を基本とし、通学区域内のバランス、校地・校舎の状況や通学上の安全、学校立地としての条件などを勘案して決定していきます。

6 小中一貫教育について

(1) 小中一貫教育制度：制度上の3類型

【制度上の3類型】

① 義務教育学校

小中一貫教育の基本形として、一人の校長の下で一つの教職員集団が一貫した教育課程を編成・実施する9年制の学校で教育を行う形態。

② 併設型小学校・中学校

組織上独立した小学校及び中学校が義務教育学校に準じる形で一貫した教育を施す形態。（同一の設置者によるもの）

③ 連携型小学校・中学校

組織上独立した小学校及び中学校が義務教育学校に準じる形で一貫した教育を施す形態。（異なる設置者（県立と市町村立など）によるもの）

※ いずれの場合も施設の形態（一体型、隣接型、分離型）は問いません。

（文部科学省 平成28年12月「小中一貫した教育課程の編成・実施に関する手引」より）

【施設形態の分類】

① 施設一体型

小学校と中学校の校舎の全部又は一部が一体的に設置されている

（小学校と中学校の校舎が渡り廊下などでつながっているものを含む）

② 施設隣接型

小学校と中学校の校舎が同一敷地又は隣接する敷地に別々に設置されている

③ 施設分離型

小学校と中学校の校舎が隣接していない異なる敷地に別々に設置されている

（学校施設の在り方に関する調査研究協力者会議

平成27年7月「小中一貫教育に適した学校施設の在り方について」より）

(2) 玉名市の小中一貫教育

玉名市の小中一貫教育は、中学校区ごとに、小学校と中学校が目指す児童・生徒像を共有し、互いに連携・協力しながら、義務教育の9年間を見通した一貫性のある学習指導や生徒指導を行い、児童生徒の豊かな人間性や社会性を育てることを理念として取り組んでいます。

(1)の分類では、玉名市の小中学校は全て、【併設型小学校・中学校】に分類されます。その中で、施設に着目し、玉陵中学校区は、小学校と中学校の校舎が渡り廊下で繋がった「施設一体型」、その他の5校区（玉名中、玉南中、有明中、岱明中、天水中学校区）は、「施設分離型」の小中一貫教育となります。

第1次の計画では、「『小中一貫教育』を実施するにあたっては、『小中一貫教育』における一元的な教育活動の効果を高めるためにも、学校規模配置適正化が進められた場合においては、小中の施設一体校となることがより望ましいと考えますが、地域の実情や財政状況に応じて、小学校と中学校で敷地を別として展開することも視野に入れ、推進を図っていきます。」としており、第2次の計画においても、基本的にその考えを踏襲します。

しかしながら、今回計画の「適正化の基本的な考え方」「(4)地域の実態を踏まえた学校の適正配置の推進」の中で、「ただし、合併前の旧3町（旧岱明町、旧横島町、旧天水町）それぞれの範囲については、学校を取り巻く社会的、歴史的な背景に留意し、『地域アイデンティティ（郷土意識）』を尊重した推進を図ることとします。」とあることから、小中一貫した教育を推進していくうえで、玉陵小中学校のように「施設一体型」あるいは「施設隣接型」がより望ましいが、地域の実情に応じ、「施設分離型」での小中一貫教育についても推進していくこととします。

※ 本計画における中学校区ごとの学校再編計画

6つのゾーンに分けた中学校区の経緯及び将来の動向から、下記のとおり学校再編を進めます。

